**説教20230806ローマ8：35-39マタイ14：13-21「愛と恐れ」**

**今日は平和主日ということで、この地にあって主の平和が実現し、いきわたっていく事を祈り願って参りたいと思います。今日はそのような祈りを結集して日本中、世界中の諸教会が祈りを合わせていることと思います。九州教区から配布されました2023年平和聖日を覚えて、と言うパンフレットには、次の様に記されています。**

**今、わたしたちが生きる世界は、軍事力が猛威を振るっています。ミャンマー、ウクライナなどの各地で多くの人々が苦難の中にいます。また琉球弧から九州にかけての「軍事要塞化」も深刻です。この状況でなすべきは、力に頼ることなく祈り、祈りの輪から行動を起こすことです。**

**誠にアーメンですが、それでは、力に頼ることなく祈り、祈りの輪から行動を起こすこと、とは具体的にはどのような行動なのでしょうか。そのことは、聖書に立ち帰り、聖書の中身をよく読む事によって、示されるでしょう。殊に、今日のマタイの聖書箇所は、主イエスの奇跡と、人間の働きがかみ合って進行していく事によって、５千人の群衆たちに食べ物が分け与えられた場面であります。草の上に座って、主イエスから頂く食べ物を、満腹するまで食べた群衆や弟子たちは、主の平和に満たされた人々の具体的な姿を顕しています。私たちは力に頼ることなく、主イエスに寄り頼んで歩む時、この様に主イエスから平和が与えられるのだ、と言うのが聖書が語る確信であります。**

**今日のマタイ福音書の１４章１４節、「イエスは舟から上がり、大勢の群衆を見て深く憐れみ、その中の病人をいやされた。」とあります。**

**この様に私たちが平和へと導かれるのは、主イエスの癒しと憐れみ、即ち神の愛によってであります。主イエスが私たちを愛しておられるからこそ、私たちは平和へと導かれていくのです。**

**さて、ここで出て参ります、大勢の群衆と言う言葉を聞いて、私は、リースマンという社会学者が書いた『孤独な群衆』という名著のことを思い出しました。この書物は、今から73年前の1950年にアメリカで出版されましたが、その題名のとおり、なんだか孤独になってしまった群衆としての現代人の姿を、恐ろしいほど的確に描写しています。この『孤独な群衆』という本の中身を、少し紹介したいと思います。**

**群衆はなぜ孤独になってしまったのか、これは今日に生きる私たちが思い悩んでいる処であります。リースマンは、その理由として、人々がこの社会においてどのような動機によって行動して来たかによるのだと言っています。そして、その動機と言うのが人々に対する恐れや、社会に蔓延する不安である時、人々の間の絆は分断され、人々は孤独な群衆として生きていくほかなくなってしまうという様に述べています。**

**廻りの人々、或いはマスメディアに出て来る人々の発言や動向に敏感になって、そう言った他者の意向にあわせるように人が行動するようになる時、人は人との活き活きとした交わりを失い、ただただ、人に嫌われないよう、気を使いながら、恐れと不安によって人と接するようになり、ひいては、人と接するのが億劫になって、一人の場所へと引きこもってしまいます。73年前に書かれた、この本は、今日の不安で孤独な群衆の姿を、的確に描いているのです。**

**それでは、この『孤独な群衆』という名著を再びひも解いてよく読めば、現代人がこの孤独から抜け出せる処方箋が見出せるかと言えば、そうではないのです。**

**現代人が孤独から抜け出せるための処方箋は、主イエスの御言葉である聖書に記されています。愛の人である、主イエスは、決して、人々に対して、恐れや不安感をあおって従わせようとはなされませんでした。そうではなくてイエス様は、愛の言葉によって人々を導こうとされたのです。私たちは、主イエスの十字架の前に、おそれつつ、へりくだって、その愛の御言葉を受け入れ、聞き従っていく時、私たちも又、恐れや不安によるのではなく、愛の喜びの動機づけによって行動していく事が出来るようにされるでしょう。**

**それでは聖書に聞いて参りましょう。**

**マタイ福音書 14章 13節**

**イエスはこれを聞くと、舟に乗ってそこを去り、ひとり人里離れた所に退かれた。**

**この時、イエス様は、大変疲れていました。弟子たちと共に十分に働いた後だったので、イエスは一人人里離れた所で休みたかったのでした。**

**聖書には、マタイ・マルコ・ルカ・ヨハネという４つの福音書が記されていて、それらには並行箇所と言って、同じ出来事が記されている箇所があります。今日の「５０００人に食べ物を与える」という聖書箇所でしたら、見出しの次にその並行箇所がカッコ内に記されています。並行箇所の一つ、マルコ福音書６章３０節～を見てみましょう。新約聖書72ページになります。**

**マルコによる福音書6章 31節をお読みします。**

**イエスは、「さあ、あなたがただけで人里離れた所へ行って、しばらく休むがよい」と言われた。出入りする人が多くて、食事をする暇もなかったからである。**

**「さあ、あなたがただけで人里離れた所へ行って、しばらく休むがよい」とイエスは弟子たちに言われました。聖書は、安息の時をとても重んじています。今日の主の日という日も、私たちが主の御前に、心から安息をする日であります。**

**話がそれますが、この８月の主の日の礼拝に、不老町教会の前の牧師である、岩田昌路牧師とその御家族が来られるそうです。私たち心を尽くして彼ら彼女らを歓待したいと願いますが、岩田先生は、今回、説教奉仕をされる為ではなくて、礼拝に聴衆として加わって頂けるのです。この様に、牧師にも、自分の教会を空けて普段の奉仕から離れて、安息をするときが必要である、ということでしょう。**

**「さあ、あなたがただけで人里離れた所へ行って、しばらく休むがよい」このイエス様の御言葉は、しかしながら、この時には、弟子たちに対して叶えられることがありませんでした。ちょうどその時イエス様と弟子たちの前に、憐れむべき群衆たちが押し寄せて来たからであります。イエス様は弟子たちに向かって、一旦は「さあ、あなたがただけで人里離れた所へ行って、しばらく休むがよい」と言われながら、その時の状況が、彼らにこの御言葉通りになる事を許さなかったのでした。**

**私たちは、この成り行きからして既に神の愛を学んでいるのではないでしょうか。主イエスの言葉は、愛の言葉であり、偽りではない真実の言葉です。しかし、その御言葉の通りに事が実現をするのにも、時を待たねばならないことが往々にしてあります。神の愛を語る御言葉は、そのような成り行きをも含めて、私たちの前に差し出され、聞かれていくのであります。**

**主イエスは、自分自身が安息することよりも、今目の前にいる大勢の群衆を憐み、癒すことを優先されました。それが神の愛でありますが、ではイエスに付き従って働いてきた弟子たちはどう思っていたかと言いますと、それは、もう一言、休みたいということでありましょう。自分たちは休みたい、しかし愛の業を続けておられる主イエスを離れることは出来ない、と言う葛藤が、以下のイエスと弟子たちとの会話の中に見て取れます。**

**マタイによる福音書14章 15節**

**夕暮れになったので、弟子たちがイエスのそばに来て言った。「ここは人里離れた所で、もう時間もたちました。群衆を解散させてください。そうすれば、自分で村へ食べ物を買いに行くでしょう。」**

**弟子たちは、畏れ多いイエス様に対して、自分たちを休ませて下さい、もうくたくたで奉仕なんてできませんなどと直言することは決して、ありませんでした。しかしながら人の本当の思いと言うのは、その発する言葉ににじみ出てくるものであります。この弟子たちの言葉にもその本音がにじみ出ている様です。**

**この弟子たちの言葉に対してイエス様は、「行かせることはない。あなたがたが彼らに食べる物を与えなさい。」と言われました。それに応えて弟子たちは「ここにはパン五つと魚二匹しかありません。」と言いました。この弟子たちの発言一つとっても、彼らの消極的な思いがにじみ出ています。なぜならば、弟子たちは既に、イエス様が何でも出来るお方であることを知っていて、必要ならば、5000人分の食べ物を、いまここで造り出すという奇跡を期待することも出来たからです。でも彼らはその奇跡が起こされることを望まなかったのです。なぜかと言いますと、それは単純に、彼らが、群衆たちを離れて、自分たちだけで休みたかったから、であります。**

**イエス様はそんな弟子たちの心の中の思いもお見通しで、彼らに「それをここに持って来なさい」と言い、群衆には草の上に座るようにお命じになられました。そして、五つのパンと二匹の魚を取り、天を仰いで賛美の祈りを唱え、パンを裂いて弟子たちにお渡しになりました。主イエスは当然のようにここで奇跡の業を行ったのであります。**

**私たちはこの成り行きからして、とても大事なことを学ばされるでしょう。それは主イエスによる奇跡は、私たちがそれを祈り願うことによって、促進されるということです。**

**この度は、弟子たちは消極的な思いゆえに、奇跡がなされることを祈り願うことがありませんでしたが、その奇跡は、主イエスの愛の御言葉によって配慮され、誘導された上で実現されたと言ってよいでしょう。**

**さてこの様に消極的であった弟子たちではありますが、彼らの前には、主イエスによって、5000人にいきわたらせることができる沢山の食べ物が用意されました。この沢山の食べ物を群衆たちに配るのは弟子たちの務めであります。主イエスが弟子たちに「あなたがたが彼らに食べる物を与えなさい。」と言われたとおりであります。**

**この時、弟子たちがこの沢山の食べ物を人々に配るという務めを、どのような思いでしたかについては、なかなか本文から読み取ることが出来ません。しかし、想像しますに、父なる神を賛美しつつ、イエス様の奇跡を見せられて、たくさんの食べ物が用意され、弟子たちは、この時、計り知れない祝福と喜びとに満たされたのではないでしょうか。弟子たちは、この時、自分たちだけで休みたいとひたすら願っていた思いを捨て去って、食べ物を人々に配りたいという愛の喜びの動機づけによって行動していく事が出来るようにされたのではないでしょうか。**

**私たちは、今迄マタイ福音書の聖書箇所から、弟子たちが主イエスの御言葉と応答することによって、神の愛によって働く者と変えられた様を見て参りました。それによって、この時群衆たちが座った草の上に、主の平和がもたらされ実現したのであります。**

**私たちは、今日、主の聖餐にあずかりますが、この草の上に実現された主の平和の場面は、今日の、主の御言葉を心と体で頂くという聖餐式につながっています。私たちは、聖餐と言う食事にあずかることによって、益々、主イエスの御言葉を味わい知り、主イエスと会話が出来るようになり、主イエスの奇跡を待ち望むようにされ、遂には、この地上での死からの復活の命に生きることが出来るようにされます。**

**「だれが、キリストの愛からわたしたちを引き離すことができましょう。艱難か。苦しみか。迫害か。飢えか。裸か。危険か。剣か。」**

**キリストの愛の動機づけによって生きることこそ、私たちが、救いの奇跡に招き入れられ、孤独な群衆としてではなく、神の民として共に歩んで行くことが出来るキリストの道であります。私たちは、この一週間も、主イエスの御言葉に寄り頼んで、主の平和を実現するキリストの奇跡に出会う歩みを続けて参りたいと願います。**

**祈ります**

**平和の君なる神よ、あなたは私たちに有り余るほどの食べ物を用意して下さり、誰もが感謝と賛美のうちにそれを味わい頂く者として下さいました。有難うございます。**

**あなたは御子イエスキリストを私たち一人一人にお与えになって、私たちが罪赦されて、永遠の命に生きる者たちとして下さいます。その計り知れない恵みに感謝します。**

**青草の上で食べ物を分かち合う人々の姿は、あなたの慈しみと憐みによってもたらされます。全ての争い、妬み、対立、戦争、悪い心をどうか私たちから遠ざけ、私たちをあなたの平和へと招き入れて下さい。**

**現在、この地上で行われている争い、妬み、対立、戦争、悪い心を、あなたの奇跡の業によって、打ち砕き、私たちを、青草の上で安息する者たちとならしめてください。**

**いましばらくの間、私たちは、苦難と試練の中に置かれるかも知れませんが、その苦難の時をも、あなたが祝し守って、天の国を待ち望む幸いの時として下さい。**

**父と聖霊と共に一体であり、世々活き支配されています、私たちの救い主イエスキリストのお名前によって祈ります。**